

日本評価学会
社会実験分科会
2021/7/3

ナッジを活用したEメールの効果検証 —クラスターランダム化比較試験—

岡山県
Policy Nudge Design
青森県立保健大学

安藤如照
植竹香織
竹林正樹

COI開示

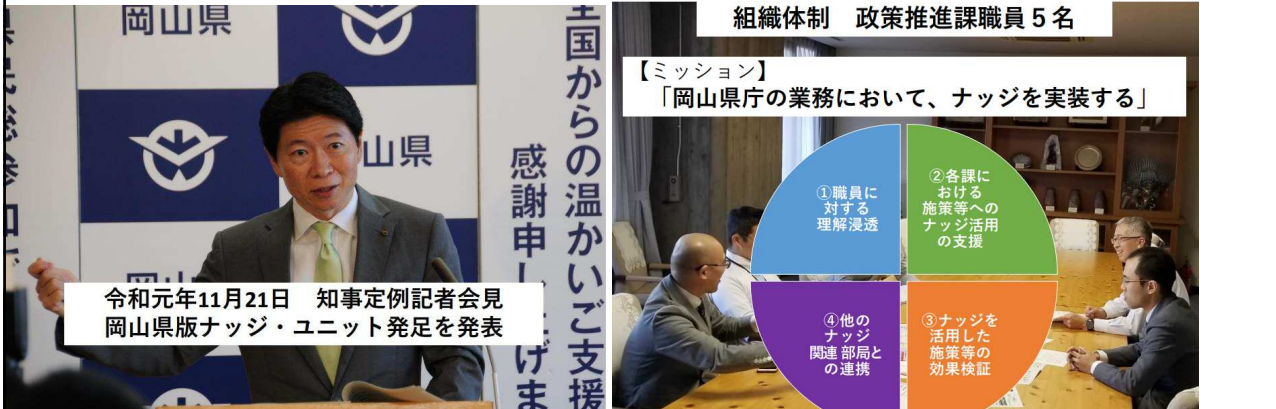
本発表に当たり、利益相反関係にある企業等はありません。

課題

行政機関ではメール対応に多くの時間を割いているが、
「相手に読まれ、目標行動を促すメールとは？」は、明らかにされていない。

背景

岡山県版ナッジユニットが発足 (都道府県初)



リサーチクエスチョン

ナッジユニット発足の告知メールにナッジを利かせることで、行動へ促せるのではないか？

実践としての意義

- ① ナツジのRCTをデザインし、アウトカム計測から検証まで自ら行うことで、ノウハウを身につけたい。
- ② 職員にナツジとRCTを実感してほしい。

研究デザイン

目的

ナツジを使ったメールの効果測定

アウトカム

メール記載のHPアクセス数

対象者

岡山県庁全職員

手法

クラスターRCT

介入群 1

件名：（お知らせ）岡山県版ナッジ・ユニットをつくりました。

本文：あなたの担当する事業でこんな悩みを解決できるか？

- ・相手にメリットがあり、周知もしているのに効果が上がらない。起こしてもらえない。
- ・どれだけ注意喚起しても効果が上がらない。

（中略）

事業等で人の行動をよい方向に変えたいと思ったら、一度、私たちにご相談ください。

詳しくは、以下の専用ホームページをご覧ください。

<http://kenchoweb.pref.okayama.jp/personal/seisaku/nudgeunit/index.htm>

コンパクトな
件名 (Easy)

語り掛ける
口調の本文
(Attractive)

介入群 2

件名：（お知らせ）総合政策局政策推進課内に職員で構成する岡山県版ナッジ・ユニットをつくりました。

本文：介入群1と同じ

冗長な件名
(ナッジなし)

語り掛ける
口調の本文
(Attractive)

介入群3

件名：介入群2と同じ

本文：行動科学の知見に基づく新たな政策手法（※2）を県の施策・事業等に取り入れることを目指し、職員による岡山県版のナッジ・ユニット（※3）を設計・実施する。

※1 従来の政策手法である「法令等による啓発」に次ぐ新たな政策手法とされています。

※2 ナッジ（nudge：そっと後押しする）は、個人の自由を阻害することなく各自がより良い選択を行うよう、情報発信や選択肢の提示の方法を工夫するものです。

※3 イギリスやアメリカをはじめとする諸国において、ナッジを活用した政策が進められており、日本においても「日本版ナッジ・ユニット（環境省）」や「ナッジ・ユニット（YBiT（横浜市）」などが設置されています。

2 取組の内容

①職員等へのナッジに対する理解の浸透

- ・事例、文献紹介等の情報提供
- ・職員研修

②庁内各課における施策・事業等へのナッジ活用の支援

- ・相談対応
- ・ナッジの設計

③ナッジを活用した施策・事業等の効果検証及び検証結果の発信

- ・ナッジの効果検証
- ・ホームページ等での検証結果の発信

④他の地方公共団体をはじめとしたナッジ関連部局との連携

3 ユニットの体制

政策推進課職員で構成

詳しくは、以下の専用ホームページをご覧ください。
<http://kenchoweb.pref.okayama.jp/personal/seisaku/nudgeunit/index.htm>介入群1と同じ

冗長な件名
(ナッジなし)

ナッジ群の2倍
の長さの本文
(ナッジなし)

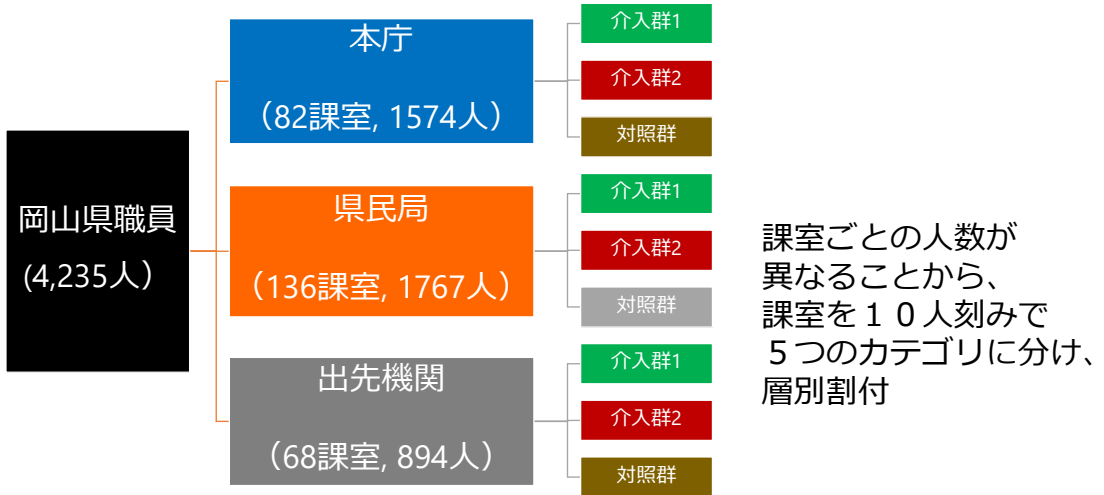
仮説

介入群1 > 介入群2 > 対照群

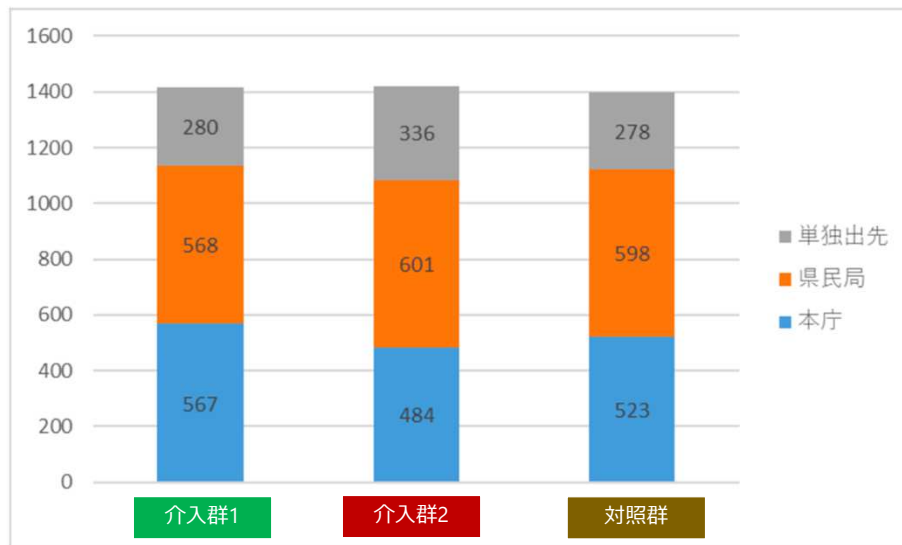
※介入群はプライミング効果が働き、
高い効果が出現すると期待

割付

課室をクラスター単位に無作為割付



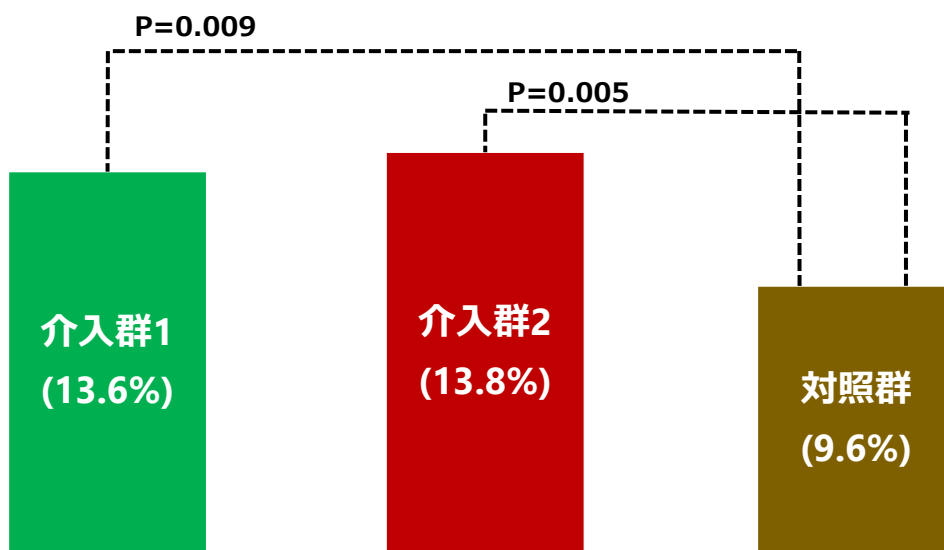
割付後の所属内訳



閲覧者

全職員 4,235人中、
HP閲覧者は 522人
(12.3%)

統計解析



結果①

**件名の違いによる
有意差はなく、
本文にナツジを用いる
ことで効果**

考察①

**対象者は本文のナツジに
反応すると示唆**
➡**短い本文はメール処理
時間短縮**
➡**費用対効果が高い可能性**

結果②

**職員向けナッジセミナーで
結果を解説**

➡職員はナッジと実験に興味

考察②

**調査に参加することで
対象者はナッジと実験の
具体的イメージを持ち、
関心が高まったと示唆**

限界

- ① 全体のアクセス率が低い
➡ 業務メールでもリンクをクリックしなかった。
- ② 結果の即時一般化は困難

貢献

研究面

ナッジを使ったメールの効果について、全職員対象に検証した。

実践面

職員がナッジと実験を体験し
関心が高まった。

今後の課題

- ①他のナツジも含めた検証
- ②費用対効果も検証

結語

岡山県職員にナツジを用いたメール送信によるRCTを実施した結果、本文へのナツジに効果が見られた。

ご清聴ありがとうございました。